

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) サブクエスト



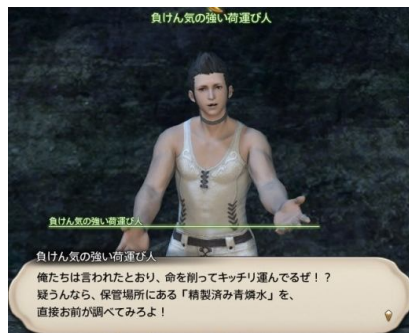
ザナラン編

北ザナラン

横領疑惑

※ウルダハクエスト「青燐水を求めて」からの連続クエスト

ババワズ： んへ、私どもと致しまして、「精製済み青燐水」の出荷は迅速に行いたいのですが、少々トラブルがありましてね……。『青燐精製所』から送られてきた青燐水が、大幅に目減りしてるんですよ。これはきっと、誰かが横流ししてるに違いありません。んへ、私は犯人は荷運び人だと踏んでるんですがね。急ぎの用であれば、集積所にいる荷運び人の頭を「問い詰めて」みてくださいよ。



負けん気の強い荷運び人： ふうへ、ここいらは魔物が強くて、物資の運搬も命がけだぜ……。なに、「精製済み青燐水」を横流してないかだと！？ ふざけんな、とんだ濡れ衣だ！俺たちは言われたとおり、命を削ってキッチリ運んでるぜ！？ 疑うんなら、保管場所にある『精製済み青燐水』を、直接お前が調べてみろよ！

負けん気の強い荷運び人： なんと、コブランが『精製済み青燐水』を飲んでやがったのか！ あんなモンを飲む魔物がいるとは驚きだぜ。まったく油断も隙もねえ……。濡れ衣は晴れたようだが……仕様がねえな。足りないぶんはもう一度、精製所から運んでくるとするか。……次からは保管場所に気をつけねえと。

ババワズ： んへ、なるほど……コブランですか。犯人がわかったようでなによりですよ。今後は、魔物対策に護衛をつける必要がありますね。んへ、護衛にかかる経費を理由にして、ついでに値を吊り上げましようかね。

したたかな独占企業

ババワズ： んへ、ともあれ、これで『精製済み青燐水』が、出荷できるようになりましたね。ウルダハの『シントゴート』さんに、近日中に必要な量をお届けすると、お伝えください。んへ、少し値上がりするかもしれませんがともね。

シントゴート： おう、アンタか。……ふむふむ、しばらくすればウルダハに『精製済み青燐水』が届くんだな？……それにしても値上げだと？ ババワズめ、アマジナ鉱山社の権威を笠に着やがって。ほんとうにいい好かねえ野郎だな。わざわざ、教えてくれてありがとよ。おかげで助かったぜ！

ギルドリーヴ開放「キャンプ・ブルーフォグ」

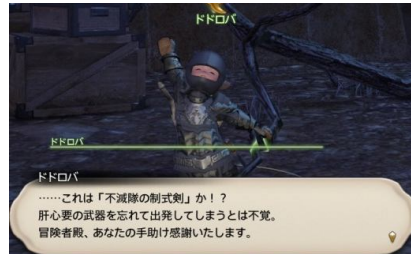
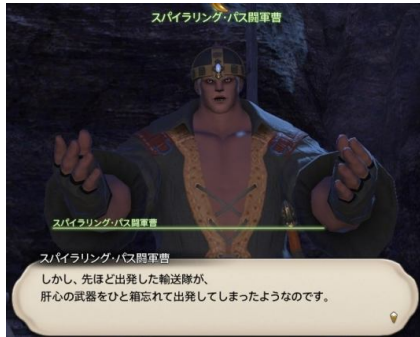
ルルバナ： やあ、冒険者！ ちょっと、仕事をやってみる気はないかい？
僕はルルバナ。冒険者ギルドの一員として、君たち冒険者に、「ギルドリーヴ」の依頼を紹介してるのさ。
依頼の内容は魔物退治から物資の調達までこのキャンプ・ブルーフォグ周辺から寄せられたいろいろな仕事が、君を待っているよ。
どうだい、興味が出てきたかな？ なら僕に、君の実力を見せてくれないかい？
結構ノリいい依頼もあるから、君の力を確かめたいんだ。
これは、僕の扱ってる依頼のひとつ。君には、まずはこのリーヴをこなしてほしい。
イイね～！ さすがは冒険者だね。
この依頼人は、新しい爆薬を作りたいようだね…… 魔物を倒して、可燃性の素材を集めてほしいんだって。
魔物からは、それぞれ異なった素材を獲得できるからいろいろ倒して、素材を集めてくれよな。

ルルバナ： お疲れ様。見事、依頼は完遂だね、文句のつけようもないよ。結果はもちろん合格さ。これからは、頼りにさせてもらうよ。



前線の物資運搬

スパイラリング・パス副軍曹：我々不滅隊では、ガレマール帝国側に動きを悟られぬよう、アマジナ鉱山社の輸送隊に偽装して糧食や武器などを運搬しています。しかし、先ほど出発した輸送隊が、肝心の武器をひと箱忘れて出発してしまったようなのです。輸送隊は、ここから北の東方監視塔に向かっております。申し訳ありませんが、輸送隊を追いかけて、この「不滅隊の制式剣」を渡していただけませんか？

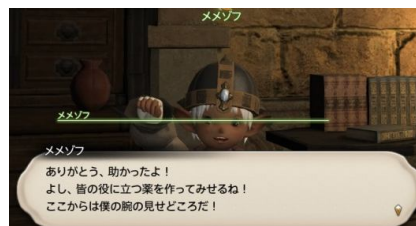
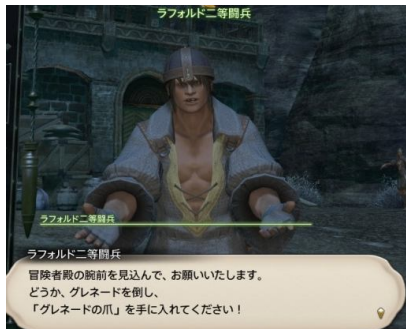


ドロバ：我々はアマジナ鉱山社の輸送隊である。現在、鉱石を運搬中だ。用がないなら話しかけないでいただこう。
……これは「不滅隊の制式剣」か！？ 肝心の武器を忘れて出発してしまうとは不覚。
冒険者殿、あなたの手助け感謝いたします。

スパイラリング・パス副軍曹：ご苦労さまです、助かりました。……無事に武器を届けられたようですね。大事に至らなくて本当によかった。この北ザナランには、ガレマール帝国の支配地域と我がウルダハの支配地域の境界があります。ゆえに作戦行動には、細心の注意が要求されるのです。

メメゾフ錬金薬

ラフォルド二等衛兵：最近「ダラガブの爪」付近で、非常に凶暴な魔物……「グレネード」の目撃情報が寄せられています。厄介ではありますが、これはチャンスでもあります。奴からは「グレネードの爪」という強力な錬金薬の素が採れるのです。冒険者殿の腕前を見込んで、お願いいたします。どうか、グレネードを倒し、「グレネードの爪」を手に入れてください！そして「青燐精製所」にいる「メメゾフ」に渡してほしいのです。彼の薬は、これからの戦いにおいて必要になりますから！



メメゾフ：うう、困った……錬金薬の材料が足りないぞ。薬の在庫も心細いし……うう。
これは「グレネードの爪」じゃないか！ ちょうど切らして困っていたんだ！ ラフォルドが、君に頼んでくれたんだね。
ありがとう、助かったよ！ よし、皆の役に立つ薬を作ってみせるね！ ここからは僕の腕の見せどころだ！

命を守る仕事

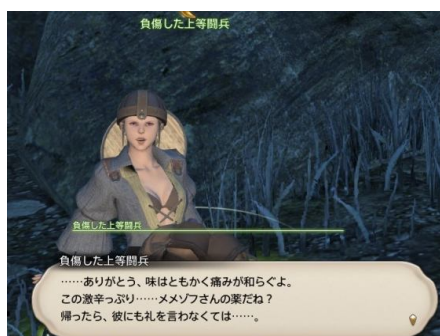
メメゾフ：君に届けてもらった材料で、さっそく「ポーションカクテル」を作ったんだ。これを使って、負傷兵を手当てしてあげてほしい。帝国兵との小競り合いで、死傷者は増え続けている。……戦場で誰も死なせないなんて、傲慢だけど。だったらせめて、ひとりでも多く救いたいって僕は思うんだ。

負傷した上等闘兵：ぐっ……！ だれか、薬を……。……ありがとう、味はともかく痛みが和らぐよ。この激辛っぷり……メメゾフさんの薬だね？ 帰ったら、彼にも礼を言わなくては……。

負傷した闘兵長：イテテテテテ……。まいったな……動けそうもねえ……。これだから、仲間ってのは心強え……！ 手当てしてくれてありがとうな、冒険者。

負傷した一等闘兵：はあ、はあ……。俺はここで死ぬのか……？ 母ちゃん……。み、味方が……！ 俺の運はまだ、尽きてないようだ……！ 助かった、生きてまたどこかで会おう！

負傷した二等闘兵：帝国兵め……卑怯な手を……！ く、傷がうずく……。ポーションカクテルか、助かる！ ……一度キャンプに戻り、体勢を整えよう。



メメゾフ：……薬を届けてくれたんだね、ご苦労さま！ 一時的にでも痛みが引けば、撤退できて治療が受けられる。君が届けてくれたグレネードの爪のおかげさ！ 僕はもともと、前線で戦う兵士だったんだけど、数年前に怪我をして、戦えなくなってしまったね。それから、錬金術を猛勉強して、衛生兵に転向したんだ。戦えなくなったときは絶望したけど…… 僕の薬があることで、前線の兵が安心して戦えるなら、それはそれで良いことなんだから、今は思ってるよ。

貴重な薬

メメゾフ：せっかくだ、もうひと仕事頼まれてくれないかな？ 薬の材料を調達してきてほしいんだ。ここは、ご覧のとおり前線だからね。いくら材料を運びこんでも、すぐに使いつくしてしまうんだ。そうだなあ……「アーリマン」から、「アーリマンの角膜」を採ってきてくれるかい？ 2個もあれば大丈夫さ、よろしく頼んだよ！



メメゾフ：「アーリマンの角膜」は手に入ったかい？ 見た目は悪いが、いい薬の材料になるんだ。2個もあれば大丈夫さ、よろしく頼んだよ！ ……持ってきてくれたんだね、ありがとう！ これだけあれば、かなりの量の止血剤ができるよ。薬を使いきる前に戦いが終わればいいんだけど……。いや、そんな夢みたいなこと言っても仕方ないか。何にしても僕は自分のことをするだけさ！ ありがとう、冒険者君！

たなびく軍旗

ラフォルド二等騎兵：冒険者殿、警戒任務にご協力できませんか。現在、付近の兵は皆、戦の準備に追われており、見張りの手が足りておりません。いつ帝国兵が侵入するともわかりません。「不滅隊の軍旗」を目印に、見張りをしていただけないでしょうか。

ラファールド二等副兵： 見張りの任務、ご苦労様でした！ ……そうですか、コブランが出現しましたか。
帝国兵は見当たらなかったのですね、よかった……。
早々に来るはずがないとは思っていますも、相手は、あのガイウス軍団長率いる第XIV軍団です。
最前線に任に就く我々にとって、気を抜く暇はありません。

